

農業後継者育成基金事業

令和4年度農高就農促進対策助成事業

事業主体名 鹿児島県立山川高等学校

1 目的

本校園芸工学・農業経済科の教科学習においては、地域の特性を活かしたマメ類の栽培や販売会等を通して、農業に関する学習内容の専門性や意識の向上を図るとともに、学校及び生産物のPR等に努めている。また、スマート農業や先進的農家視察研修等を通して、農業への興味・関心及び意識向上を図っている。

2 実施状況

(1) 山川中学生への体験学習

山川中学校1年生が山川高校に来校し、ドローン操作やトラクタ操縦（走行・バケット操作）を体験した。農業機械に触れるとともに専門高校での学習について理解を深め興味・関心の向上を図った。



トラクタへの体験乗車の様子

(2) 視察研修の実施

ア 鹿児島中央青果市場

実際に市場内を見学しながら説明があった。輸入バナナに関すること（植物防疫法）や競りの形式など（ほとんどが相対取引になっている）について学んだ。また、今後はカット野菜や冷凍野菜の流通が進むとの話もあり、大変勉強になった。



物流の説明を受けている様子

イ ピーマン農家（志布志市）

実際にピーマンハウスやフェロモントラップなどを見ながら説明があった。

現在の経営概要や栽培方法、フェロモントラップの導入にいたった考え方や経営方針などを聞いて、今後の農業の姿や可能性を肌で感じるとともに、経営者に必要な資質や考えなどを沢山学んだ。



栽培方法について説明をうけている様子

(3) 営農の門出を励ます会の実施

令和4年度の卒業生のうち2名が鹿児島県立農業大学校へ進学、1名が直接就農を決めた。今後の地域農業への貢献等を視野にこれら3名の生徒を励ます会を実施するとともに、今後の抱負や目標を発表し励まし合った。



「営農の門出を励ます会」での記念撮影

3 今後の課題及び取組

本助成の継続的な御支援により、今年度卒業した3年生は6人中3名(50%)が農業関係への進学・就職を決めた。今後も生徒の農業に対する興味・関心を育むとともに、地元及び県内で活躍・貢献できる人材育成・確保にも取り組んでいきたい。